

肺縮小切除モデルを用いた自己修復・再生能力の検討

<研究の目的>

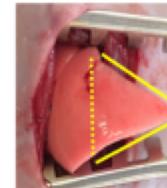
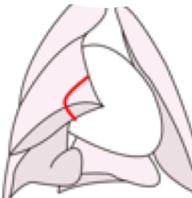
生体ラットの肺縮小手術モデルを確立し、残存肺の自己修復・再生能の検討を行い、自己肺を温存利用した肺再生医療の可能性について探索する。

<ラット肺縮小切除モデルの確立>

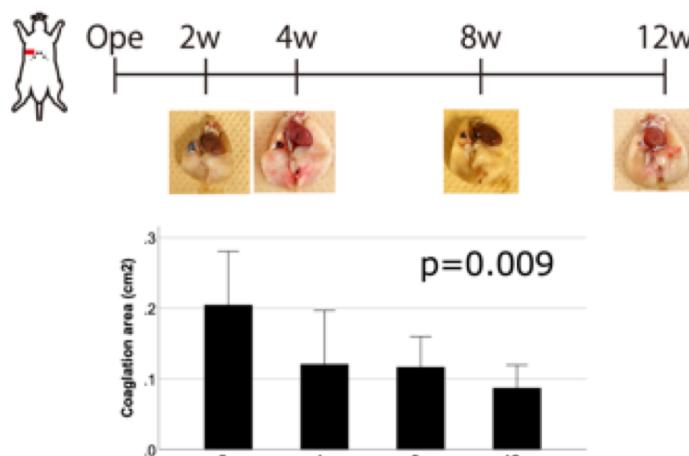


- ✓ 生体9-10週ラット
- ✓ 全身麻酔・人工呼吸器管理
- ✓ 右開胸
- ✓ PEEP: -2cmH₂O
- ✓ 右中葉部分切除

頂部から1.5cmを電気メスで切除

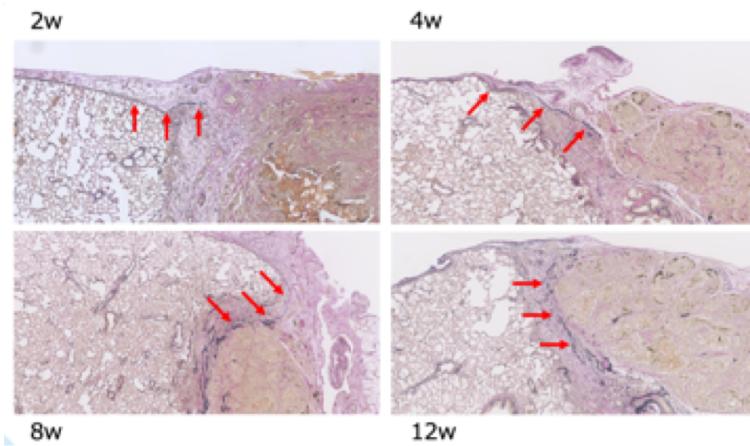


<切離領域の変化>



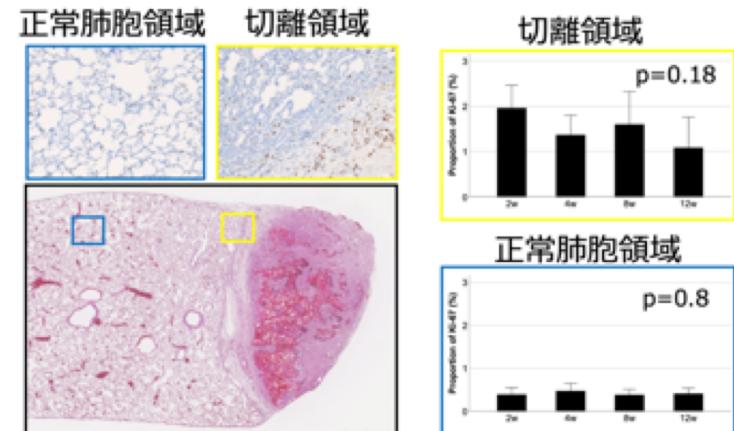
切離領域は経過で縮小し、修復・再生機構の存在がうかがえる。

<胸膜領域の変化>



胸膜を構成する弾性纖維の増生を認める。

<切離領域の増殖能>



切離領域でKi-67陽性細胞を認め、肺切後の増力能を確認した。